

2017. 3. 13

歴史民俗資料館だより No.118

長崎市歴史民俗資料館

〒852-8117 長崎市平野町7番8号

TEL (095) 847-9245 (FAX 兼用)

<http://www.city.nagasaki.lg.jp/kanko/820000/828000/p009251.html>

新収蔵品と端午の節句展

会期 3月30日(木)～6月11日(日)

展示品 頭形桶側胴具足・古渡硝子徳利・文箱・思案橋改架記録等・軍事郵便葉書・写真スライド一式、土佐光孚筆 端午図、初節句飾り幟・豊臣秀吉の節句人形など 約 50点

平成28年度も、市民の皆様方から貴重な資料の御寄贈をいただきまして、誠にありがとうございました。

各資料とも、どれもが生活と文化、歴史を物語る品々です。特に今回は、当館初となる甲冑かっちゅうの御寄贈がありました。

そこで、当館では、御寄贈いただきました新収蔵資料と端午の節句の資料を展示します。本紙では、その主な展示資料を御紹介いたします。

展示に際しまして、貴重な資料の御寄贈をいただきました、池本ひとみ様、本多謙一様、三宅文香様、牟田公久様、山口春美様、山本瑩子様を始め関係各位に深く御礼申し上げます。



思案橋改架記録 甲寅4月

大正3(1914)年

鍛冶屋町から本石灰町に明治7年石橋が架かっていました。しかし、痛みが著しく大正3年に市費900円、寄付金1,100余円を集め、鉄橋が架かったことが有志総代、山口直十郎氏らによって記されています。



頭形桶側胴具足 江戸時代後期

牟田家は佐賀藩諫早領 矢上宿で領主も立寄る家柄で、酒造業も行い、山役人も勤め、領主への献金などもたびたび行っていました。この具足は文化5(1808)年のフェートン号事件以来幕末に至る間に、長崎港警備の重要性を増大した状況に対応して備え付けられていたものです。



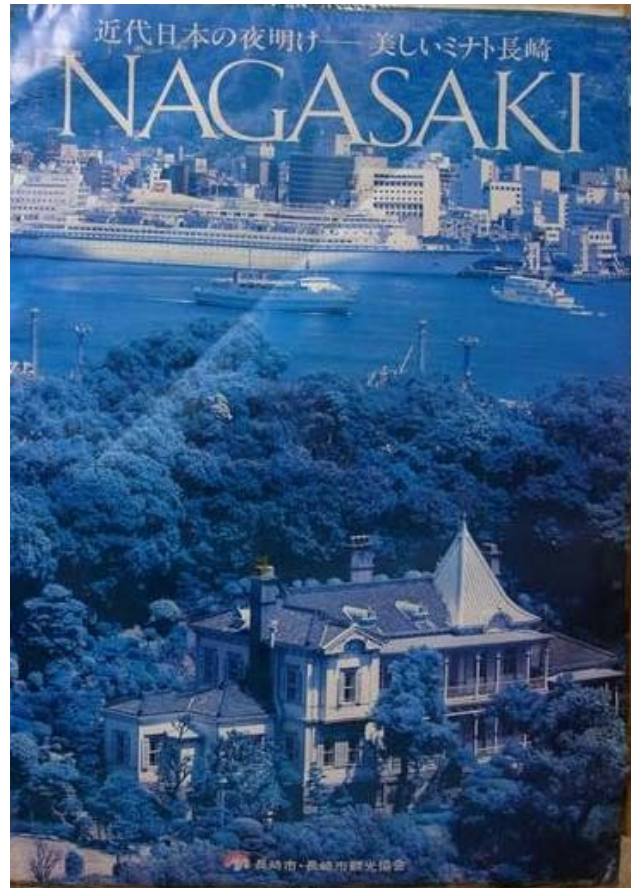
古渡硝子徳利 江戸時代後期

この銘酒瓶は、出島に多量輸入された19世紀前半のオランダ製の型吹き込みの栓付・ガラス瓶です。嘉永2(1849)年の『紅毛荷物見帳』などにも図示されています。



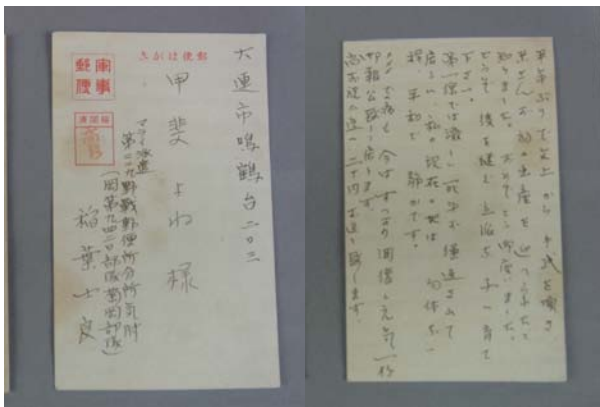
文箱 明治時代初期

文箱は書状などを入れておく手箱。また、書状をいれて先方に届ける細長い皮張箱です。本品は表中央に長辺に添って朱漆が塗られ、蓋が開かぬように皮帯がかかっています。



長崎市観光ポスター

このポスターの写真撮影者は本多勇氏(1911～1999)年です。昭和45年～54年にかけて、長崎市観光写真コンテストの金賞を何度も受賞し、他にもポスターとなった写真を撮影されています。今回、多数の市内各観光施設を撮影されたスライドを御寄贈いただきました。



軍事郵便葉書 昭和19(1944)年

マライ派遣部隊の兄から、大連の妹へ出産祝金を送ったとの葉書です。

長崎市小川町西家旧蔵品

京都の大木平蔵商店で制作されたものです。



端午の節句人形 (加藤清正・豊臣秀吉・雑兵)

明治34(1901)年